

開講年度	令和 7 年度		開講課程	博士前期課程
授業名	形態機能医学特別演習			
開講キャンパス	紀三井寺	教室	各研究室	
科目区分	特別科目	配当年次	1 ～ 2 年次	
必修・選択の別	選択	単位	2 単位	
対象学生	－	使用言語	日本語	
キーワード	(システム神経生理学) シナプス伝達 (統合分子生理学) 細胞イメージング (機能調節薬理学) イオンシグナル制御機構 (分子病理学) がん			
担当教員 (下線：科目責任者)	医	(システム神経生理学) 教授 小林克典、准教授 木村晃久、講師 井辺弘樹 (統合分子生理学) 教授 中田正範、准教授 廣野守俊、講師 稲葉秀文 (機能調節薬理学) 教授 西谷友重、講師 納富拓也、講師 陳 以珊、助教 安田純平 (分子病理学) 教授 江幡正悟、講師 及川恒輔、講師 中西雅子		
	薬			
授業の概要	システム神経生理学、統合分子生理学、機能調節薬理学、分子病理学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、人体の機能や構造などに係る形態機能医学の各分野に係る文献を読み、専門的知識を修得するとともに、基本的な研究手法や実験手技について理解を深める。またディスカッションを行うことにより、自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。			
到達目標	(システム神経生理学) シナプス機能を中心として中枢神経系の動作原理とその研究手法を理解する。 (統合分子生理学) 生理学的実験手技の原理を理解・修得する。 (機能調節薬理学) 興奮性組織におけるイオンシグナル制御機構と基礎的解析方法について修得する。 (分子病理学) がん研究で用いられる基本的な手法の修得を目指す。			
授業計画	(システム神経生理学) シナプス伝達、神経回路、高次脳機能に関する基本知識と研究手法を解説し、関連する文献を読んで理解を深める。(小林克典／木村晃久／井邊弘樹) (統合分子生理学) 生理学的研究手法の原理を解説し、実際に細胞実験を指導する。(中田正範／廣野守俊／稲葉秀文) (機能調節薬理学) イオンシグナル制御機構と解析方法 興奮性組織におけるイオンシグナル制御機構について概説する。またこれに必要な解析方法について理解を深め、ディスカッションを行う。(西谷友重／納富拓也／陳 以珊／安田純平) (分子病理学) がん研究における生化学的・分子生物学的解析手法 (及川恒輔／中西雅子) がん細胞の悪性形質の解析手法 (江幡正悟) がん研究で用いられる基本的な手法について解説するとともに、実際に実験を行うことで技術の修得を目指す。(江幡正悟／及川恒輔／中西雅子)			

授業の方法・形態	演習を中心とする。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100%（討議内容、ディスカッションへの参加姿勢、研究技能の修得状況、発表内容など）によりS（90点以上）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、D（59点以下）の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー（学生からの質問事項等への対応）	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	（システム神経生理学） 特に指定しない。 （統合分子生理学） 特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。 （機能調節薬理学） 特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。 （分子病理学） 特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。